

2021. 7. 6

ウェーブ

時評



田中 均

たなか・ひとし 69年京大法卒。外務省経済局長、アジア大洋州局長、外務審議官を経て（株）日本総研国際戦略研究所理事長、（公財）日本国際交流センターシニア・フェロー。

SNSの世界で想う

ユーチューブを始めて2週間に
なる。4月にこのコラムでなぜツ
イッターを始めたのかを書いた。
ツイッターのフォロワー数はこの
3カ月で1万5千になる。ほぼ毎
日、内外の情勢にコメントしてい
る内に、1カ月間では数百万のイ
ンプレッション（閲覧）を得るだ
けでなく、とても刺激的な返信を
頂いている。140字で想うこと
を書くのは大きなチャレンジでは
あるが、大事なことで、そうでな
いことを取捨選択するうちに
思考が整理される。ただ、そこに
より臨場感を持たせて動画で語る
ことで、さらに想いを伝えること
ができるのではないかと考えた。

チャンネルを開設して2週間で9
本動画をアップし、チャンネル登
録者は1300人余りとなった。
視聴者はじわじわと広がっている
ようだ。

SNSの世界で発信するように
なつて想うことは多い。スマート
フォンの普及により世界は大きく
変わり、人々への伝達方法は多様
化した。組織にとられず個人が、
いつでも、どこでも発信できる社
会となった。これまで人々の生活
においてほぼ唯一の視聴メディア
であった「テレビ」から媒体が多
様化し、情報は世の中にあふれて
いる。視聴者はテレビのように受
動的にコンテンツを待つのではな
く、ユーチューブのように、自ら
能動的にコンテンツを選ぶように
なった。そして「マス」に受け入
れられた「インフルエンサー」と
呼ばれる人たちの社会に与える影
響力は格段に大きくなった。

36年間勤務した外務省を退官し
て15年余り。その間大学で教鞭を
とり、いろいろな媒体で発信をし
てきた。早期退官した理由は世論
形成に役立ちたいという思いだっ
たし、今日に至るまでその思いが
変わることはない。しかし、メデ
ィアの多様化の中で社会の「マス」
に対して訴える力を持つのは容易
ではない。特にSNSの視聴者は
能動的にコンテンツを選ぶわけ
の今日的な意味合いを語ることに
しようと思っている。例えば北朝
鮮との交渉が佳境に入った時、自
分の脳裏に去来したものは何だっ
たか、それは、どういう結末を迎
えたのかを語り、近隣諸国との関
係と未来をどう考えていくべきか
を問う、といったことか。異なる
職業を経験した人たちとも討論す
る番組も作りたい。ユーチューブ
で経験を積んだら、オンラインサ
ロンも開講したいと思う。「マス」
ではなく、国際関係に関心を持つ
人あるいは国際分野で職業を求め
ていく人たちとともにサークルを
作り、良質な議論の場を作ること
も考えている。

メディアが多様化している中
で、テレビや新聞などに加え、新
しいメディアの世界で世論啓発活
動を行うのは簡単ではないし、試
行錯誤を続けていきたい。今後も
変わりゆく社会に適応した方法で
世論啓発を行う重要性は、ますま
す高まるだろう。

ユーチューブを始めて2週間に
なる。4月にこのコラムでなぜツ
イッターを始めたのかを書いた。
ツイッターのフォロワー数はこの
3カ月で1万5千になる。ほぼ毎
日、内外の情勢にコメントしてい
る内に、1カ月間では数百万のイ
ンプレッション（閲覧）を得るだ
けでなく、とても刺激的な返信を
頂いている。140字で想うこと
を書くのは大きなチャレンジでは
あるが、大事なことで、そうでな
いことを取捨選択するうちに
思考が整理される。ただ、そこに
より臨場感を持たせて動画で語る
ことで、さらに想いを伝えること
ができるのではないかと考えた。

チャンネルを開設して2週間で9
本動画をアップし、チャンネル登
録者は1300人余りとなった。
視聴者はじわじわと広がっている
ようだ。

36年間勤務した外務省を退官し
て15年余り。その間大学で教鞭を
とり、いろいろな媒体で発信をし
てきた。早期退官した理由は世論
形成に役立ちたいという思いだっ
たし、今日に至るまでその思いが
変わることはない。しかし、メデ
ィアの多様化の中で社会の「マス」
に対して訴える力を持つのは容易
ではない。特にSNSの視聴者は
能動的にコンテンツを選ぶわけ
の今日的な意味合いを語ることに
しようと思っている。例えば北朝
鮮との交渉が佳境に入った時、自
分の脳裏に去来したものは何だっ
たか、それは、どういう結末を迎
えたのかを語り、近隣諸国との関
係と未来をどう考えていくべきか
を問う、といったことか。異なる
職業を経験した人たちとも討論す
る番組も作りたい。ユーチューブ
で経験を積んだら、オンラインサ
ロンも開講したいと思う。「マス」
ではなく、国際関係に関心を持つ
人あるいは国際分野で職業を求め
ていく人たちとともにサークルを
作り、良質な議論の場を作ること
も考えている。

しかし配信した動画が世論啓発
に資するものでないと意味がない
し、自分の主義主張を曲げて世論
迎合的になることも避けた。今
は、自分が外交官として経験して
きた場面を切り取って紹介し、そ
の今日的な意味合いを語ることに
しようと思っている。例えば北朝
鮮との交渉が佳境に入った時、自
分の脳裏に去来したものは何だっ
たか、それは、どういう結末を迎
えたのかを語り、近隣諸国との関
係と未来をどう考えていくべきか
を問う、といったことか。異なる
職業を経験した人たちとも討論す
る番組も作りたい。ユーチューブ
で経験を積んだら、オンラインサ
ロンも開講したいと思う。「マス」
ではなく、国際関係に関心を持つ
人あるいは国際分野で職業を求め
ていく人たちとともにサークルを
作り、良質な議論の場を作ること
も考えている。

メディアが多様化している中
で、テレビや新聞などに加え、新
しいメディアの世界で世論啓発活
動を行うのは簡単ではないし、試
行錯誤を続けていきたい。今後も
変わりゆく社会に適応した方法で
世論啓発を行う重要性は、ますま
す高まるだろう。